最大舌圧の測定

A｜JMS方式｜各試行のピークと代表値を分ける

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

実施手順

1 使用機器の電子添文・取扱説明書で準備・接続・圧力調整を確認。姿勢、義歯、口腔痛、説明の理解を記録する。

2 バルーンを舌と口蓋の間に置き、硬質リングを前歯で軽く保持。口唇を閉じ、舌でバルーンを口蓋へ最大努力で押す。バルーンを歯でかまない。

3 約7秒の押圧を3回行う採用法を基本とし、休息を記録。各試行の最大値（kPa）を残す。目的と参照資料に応じ、最高値か平均値かを測定前に決める。

評価・記録

試行	最大圧（kPa）	有効／理由
1	_____	
2	_____	
3	_____	
最高値／平均値	____／____	有効試行数：____

採用値：____ kPa ☐ 最高値 ☐ 平均値 ☐ その他：____
30 kPa未満は口腔機能低下症で用いる低舌圧の基準。誤嚥や食形態を単独で決める境界ではない。

実施条件・症状／標準手順から変更したこと

出典・版の確認

JMS：現行の機器資料・クイックマニュアル ↗

舌圧3回・約7秒の研究方法（2025） ↗

Minakuchi et al.（2018）：口腔機能低下症 ↗

測定手順・評価要素を出典に基づき独自に整理した記録用紙です。メーカー・学会の公式様式ではありません。

最大舌圧の測定

B｜追加の臨床記録 ― 評価本体の得点には加えません。

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

01 結果と生活場面をつなぐ

機種、押圧時間、休息、義歯と代表値の方法をそろえます。低値と、食塊形成・送り込みの問題を照合します。

本人が困っている具体的な場面／本人・家族の言葉

検査で観察した事実／生活で確かめること

02 支援を一つ試す

記入例（架空）：最高値28 kPa。口腔内残留と食事時間も記録し、口腔・栄養・食事支援を相談する。

目標と、試す支援・環境・介助条件

実施日・場面	本人の行動・結果	必要な援助・負担

03 再評価

前回：_____ 今回：_____ 条件の違い：_____

次回確認すること・担当者・予定日

追加観察はSTROKE LAB独自欄です。検査の得点と、生活で実際にできたことを分けて共有します。